

CAS 活動の取り組み

CAS コーディネーター 田中 優希

CASとは、創造的思考を伴う芸術などの活動に取り組む「Creativity」（創造性）、健康的なライフスタイルの実践を促す身体的活動としての「Activity」（活動）、学習に有益であり、かつ無報酬で自発的な交流活動を行う「Service」（奉仕）の三つの要素から構成されている。生徒は、自分の達成したい目標を考え、それぞれの要素について活動を行う。その活動は多岐にわたり、個人で行う活動、グループで行う活動、団体と協力して行う活動等がある。それらの活動を通して、個人として成長するだけでなく、他者との関係における自己を見つめ直し、他者と協働する意義を再認識する機会ともなっている。また、CASは、DP（ディプロマプログラム）のコア科目の一つであり、その中核をなすものと言える。授業以外の様々な場面で、生徒が興味関心のある活動を自ら計画し、実行、振り返りを行い、一人ひとりが大きな成長を遂げていく一助となっている。

本校では、DP開始前の1年次からCASの準備を始めている。プレCASワークショップという形で、CASとは何か、CASの具体的な内容、リスクアセスメント等について学ぶ。また、「CAS体験」として、1年次の夏休みにグループごとにCASを計画して実行し、振り返りを行うという取り組みを行っている。このように、1年次の頃からCASについての理解を深めておくことで、DP開始時にスムーズにCASを実践することが可能となっている。

DP開始後は、各生徒にアドバイザーがつき、月に2回程度ミーティングを行っている。アドバイザーの教員は、一人につき5名程度の生徒を担当し、公式に行う面談の他に、毎回のミーティングで活動の計画や実施状況、evidence（活動の証拠となるもの）の提出状況、報告についての確認や相談を行っている。

【参考 本校のCASスケジュール】

1 年 次	4月	プレCASワークショップ① 【CASとはなにか】 「CASとはなにか」をテーマにCASの全体像を学んでいきます。	2 年 次	7月	CAS面談2回目 2回目の面談では、CASの進捗状況やCASプロジェクトなどについての確認をアドバイザーと行っていきます。 (1) 3つの要素(C, A, S)のバランスは取れているか (2) これまでどのような学びの成果を達成できたか (3) 活動に対する証拠は揃えられているか (4) これからの計画に変更はないか (5) これから始めるCAS活動への準備はできているか (6) CASプロジェクトの進捗状況はどうか
	5月	プレCASワークショップ② 【CASについて深く考える】 「CASに関するケーススタディ/リスクアセスメント」をテーマに実際のCASの活動のイメージを作っていきます。		9月	CAS面談3回目 & CASのフィニッシュ 3回目のCAS面談では、CASを総括し、CASを完遂することができたのかをCASアドバイザーと確認をしていきます。 (1) CASを終え、何を心得、それが自分のどのような成長につながったか (2) CASで得たことを今後どのように生かしていくのか (3) 自らのCAS全体で証拠はそろっているか この面談時に学びの成果7つを達成していることが、CASの完遂を判断する材料となります。
	6月 ～7月	プレCASワークショップ③ 【CAS体験準備】 「CAS体験」を実施するための準備を行います。このワークショップは大きく分けて3つのセクションに分かれます。 ① CAS体験について/校内ニーズ探索 ② 校外フィールドワーク準備 ③ 校外フィールドワーク/CAS体験計画		11月	I B 最終試験
	夏季休業中 ～9月	CAS体験 ワークショップ③で計画したCAS体験を実践します。ここでは、計画⇒実践⇒振り返りの一連の流れを実践していきます。		11月～ (最終試験後)	CASについての後輩指導 みなさんのCASは最終面談で完遂となりますが、CASの経験を生かし、1年次に対して「CASサポーター」として支援・手助けを行います。
	10月	プレCASワークショップ④ 【CAS体験振り返り】 CAS体験で得た学びについて振り返りを行います。振り返りを含めて「CAS活動報告書」に記入し、提出をします。			
	11月～ 12月	プレCASワークショップ⑤ 【CAS計画&CASアドバイザー発表】 これまでの学びを生かして、DPスタート後に実施するCAS活動の計画を立てていきます。また、担当するCASアドバイザーとの顔合わせを行います。			
	【DPスタート】 1月 CAS面談は 2月～3月	CASスタート & CAS面談1回目 1回目の面談では次のことをCASアドバイザーと確認していきます。 (1) 18か月間の計画の確認 (2) 学びの成果をどのように達成するか (3) CASプロジェクトの構想について CASの実践開始にあたり、みなさん自身が自分のCAS活動をどうやって成功に導こうとしているのかを深めていきます。			

本校のCASにおける特徴の一つに、異年次交流がある。

まず、1年次の夏に行う「CAS体験」の振り返りとして、2年次生に向けた報告会を行っている。報告会では、2

年次生から CAS 活動や報告の内容等についてのアドバイスをもらう。この取り組みは、これから CAS を行う 1 年次の生徒にとって有益であるのはもちろんのこと、CAS を実施している 2 年次の生徒にとっても自らの計画や活動、振り返りの仕方について見直す良い機会となっている。

もう一つ、毎年 12 月に実施している 1、2 年次と 3 年次との交流会がある。3 年次生が 2 つのグループに分かれ、1 年次のクラス、2 年次のクラスに行き交流を行う。そこでは、3 年次生が今まで行ってきた CAS 活動の内容や、1、2 年次生からの相談、アドバイスなどが活発に話し合われる。このような異年次の交流を行うことで、お互いに様々な刺激をもらい、CAS 活動の意義を再確認する機会とすることができる。

CAS は、自己決定、他者との協働、そして達成感を得ることができるものであり、自己を成長させ、自身のアイデンティティの構築を後押しするものと言える。本校では、アドバイザーの教員、他年次の生徒の力を借りながら、お互いに成長し合う CAS 活動を目指している。